

# しりべしiネットシンポジウム

## 今始まる！ しりべしのニュー・ツーリズムとまちづくり

日 時:平成17年3月31日(木) 16:00~18:40  
場 所:ホテル第一会館(倶知安町) 参加者数:160名  
主 催:後志観光連盟  
共 催:しりべしシステム事業運営部会、シーニックパイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート ニセコ羊蹄エリア、後志鯉街道普及実行委員会  
出席者:須田 寛 ((社)日本観光協会全国産業観光推進協議会 副会長、東海旅客鉄道株式会社 相談役)  
小川原 格 (しりべしシステム事業運営部会長、観光カリスマ)  
古谷 和之 (NPO法人WAO ニセコ羊蹄再発見の会 理事長)  
木下 裕三 (株式会社ニセコリゾート観光協会 業務企画部長)  
今井 幸世 (余市クラブ 運営スタッフ)  
富田 泰光 (きもべつWAO 代表)  
有山 忠男 ((株)ライブ環境計画 代表取締役社長)



### 須田 寛氏による基調講演の要旨

近年、国内観光は低迷しており、国内観光客の海外への流出や外国人観光客入り込みの伸び悩みの傾向があり、再活性化が求められている。問題点としては、国内観光地の国際競争力の低下が挙げられ、拡充強化が必要である。観光産業側の経営体制の視点からみると、近代化・効率化が求められているといえる。一方、社会環境の変化、観光客のニーズ変化にいかに対応していくかが重要であり、「体験・学習観光」の要素がますます重視されてきている。

これらの現状と課題を踏まえ、今後の観光産業の方向として重要となっているのが「ニュー・ツーリズムの振興」、すなわち、地域の特色を生かした新しい切り口の観光の展開である。地域としてのオリジナリティ、ストーリー性溢れる商品・サービスの開発が一層重要になっており、地域の特色を出すための観光資源の発掘・再開発に取り組む必要がある。また、新しい切り口としては、「産業観光」「街道観光」等のテーマ別観光や、体験・学習観光の視点等が挙げられる。

これらの「地域の特色をいかに活かすか」の視点からの取り組みについて具体的に考えてみると、しりべし地域の産業観光でいえば、酪農・農業・漁業観光、特産品観光等が挙げられるであろう。例えば、道外の子供たちが農場に遊びに来て、目の前でバターが作られる過程をみると、それだけでも目を輝かせ、一生忘れられない思い出になるものである。地域の個性をいかに発見し、それを観光資源として再開発していくかが重要である。新しい観光の展開のための具体的な方策としては、「演出上の工

夫（照明、修景、情報発信）」「プログラムメニューの改善（モデルコース等）」「広域連携（観光圏、観光クラスタの形成）」「町づくりの連携（地域ぐるみの観光）」「情報発信（地域主導の観光）」等が挙げられる。

地域における新しい観光の展開におけるキーワード：

「観光するところ」「官・市民・観光客、三位一体の努力」「観光は生産業、商業、環境、教育等の結節点」

### “先進国しりべし” ~須田寛氏のコメント~

「しりべしiネット」が成功したのは、「わざとらしさがない」「自然体」という、「よそ行きの着物を着て観光をしてこなかった」ことが挙げられる。それが観光客から支持され、成功した要因だと考える。これからの観光は、こういった視点が重要である。

国際化対応については、外国の旅行雑誌などを見てみると、驚くほど日本の情報は正確には伝わっていない。東京や大阪などは、比較的新しい情報に更新されているが、例えば名古屋などは、あまり観光的魅力の少ないところである、といった記述がされていたりする。そう考えると、例えば、後志にある外国資本の会社などを通じたりしながら、あらゆるツールを使って、もっともっとPRしていく必要があると考える。

観光というものは、文化事業だと考える。例えば、小樽運河のまわりの倉庫群は、その昔は誰も今のような観光施設にしようと考えてつくった訳ではない。倉庫といった非日常的な空間を喫茶店やレストランのような空間にしたアイデアもさることながら、そのことを情報化することによって初めて観光施設として成功したのだといえる。こういったことを積み重ねながら、地域内のあらゆるものを情報化し、どんどん発信していく。そして地域の文化を高めていく。それに伴って経済的にも発展する。すると、また文化的な施設が集積したり、そういったものに投資したりできるようになる。こういう視点でそれぞれの活動を続けてもらえれば、必ず、より素晴らしいiネットやシーニックになっていくと思う。小樽に限らず後志には、すばらしい資源があり、非常に大きな文化的、社会的な意義を持っている。

これら呼び起こすのが「しりべしiネット」だと思う。地元の方が自分の意見で、ボランティアで、しかも大勢の方々がメンバーとなって地元から情報を発信している。このような素晴らしいことをやっているのは、全国で大変少ない。自治体がやっているところはあるが、住民ではないので、深いところまで行くわけにはいかない。自治体には、このような能力に限度があるが、住民だったらそれは自由にできる。そういう意味合いで、この「しりべしiネット」が全国に発展するように、また全国の人々が後志での取り組みを手本にして「しりべしiネット」と同じようなあちこちに何とかネットを作っていくようになると考えられる。

つまり、後志は大変な先進国である。それをどのようにこれから広げていくか、地域でもっとたくさんの市民の方々にも参加をしていただくために、どう広げるかということに課題がある。後志の取り組みを全国が目撃しているのを忘れないでほしい。「しりべしiネット」に自信と誇りを持って取り組んでほしい。「しりべしiネット」の今後発展を期待している。